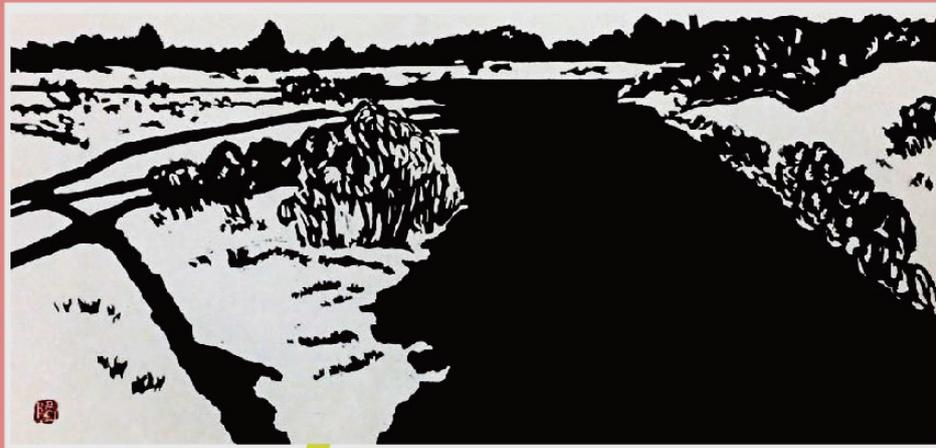




木版画と銅版画(メゾチント) 2つのアプローチから版画表現の可能性を探る



時代を超えた芸術交流展



菊地隆知 作品名「最上川」

# Monochrome Dialogue

菊地 隆知

Ryuchi Kikuchi

+

Hiroyuki Omori

大森 弘之



大森弘之 作品名「He is walking in the direction of the wind」

9.6 Fri — 10.20 Sun

10:00 — 17:00 入館は16:30まで

\* 休館日: 月曜日 (祝日の場合は翌日)

文教の杜ながい 旧丸大扇屋

〒993-0086 山形県長井市十日町 1-11-7

入館無料

お問い合わせ 一般財団法人 文教の杜ながい Tel:0238-88-4151

モノクローム  
ダイアログ



時代を超えた芸術交流2024

## Monochrome Dialogue 菊地隆知×大森弘之

2024年

9月6日(金)~10月20日(日)

10時~17時(最終入館は16時30分)

※休館日:月曜日(祝日の場合は翌日)

## 1.趣旨

文教の杜ながいでは2021年より、『時代を超えた芸術交流』として、郷土の物故作家と現代作家のコラボレーションによって、長井の芸術文化を再考し、新たな価値を創造しようとする展覧会事業を実施してきました。今年度は長井を代表する木版画家の菊地隆知と、東根市を拠点に活動する銅版画家の大森弘之による、白と黒の版画表現を巡る二人展を実施します。版表現の広がりや奥行き、またその魅力を体感していただくとともに、今回のコラボレーションが親しみある郷土作家の作品に新たな視点から光を当て、その魅力を再発見する機会となることを目指します。

写真上:菊地隆知「浅き春」

写真下:大森弘之「The shape of the wind」



## 2.出品作家



菊地 隆知 (1930-2018)

Ryuchi Kikuchi

長井市を代表する木版画家。平塚運一に師事。終戦後帰郷し教師の道へ。19歳の時、中学校での勤務中に事故で頭部を負傷し、それがもとで31歳の時に右半身不随となり、以後は左手で制作を続けた。東北現代美術協会、日本版画院等で活躍。最上川の情景や廃れ行く古民家等をモチーフに郷土の風景版画を制作したほか、晩年には「俳画」に取り組み多くの作品を残した。

1930\_長井市生まれ

1971\_山形県総合美術展史上初めて、洋画、日本画、彫刻3部門同時入賞

1993\_日本版画院展審査委員長に就任

2001\_齋藤茂吉文化賞受賞

2005\_第55回日本版画院記念展において棟方志功賞受賞

2018\_心筋梗塞のため死去



大森弘之 (1991-)

Hiroyuki Omori

版画特有の版を介在させることで発生する作品と作者のある一定の距離。適度に保たれたこの距離感に魅力を感じるとともに自己の表現への活路を見出し、「人間と自然の在り方を問う、銅版画による不可視の不変的・普遍的な存在の表現」をコンセプトとした作品を制作している。

1991\_茨城県北茨城市生まれ

2014\_東北芸術工科大学 版画コース 卒業

2016\_東北芸術工科大学大学院 芸術文化専攻洋画研究領域修士課程 修了

所属\_一般社団法人 日本版画協会 準会員、プリントザウルス国際版画交流協会 会員



### 3. 展覧会の見どころ

#### 1) 木版画と銅版画表現の魅力を探る

同じ版画表現とはいえ、木版画(凸版)と銅版画(凹版)は原理的に真逆の印刷形式です。また、菊地の木版画はダイナミックに作業が展開し、作品も白と黒でクッキリと明瞭に構成された画面になるのに対して、大森の銅版画(メゾチント技法)は、気が遠くなるほど地道な目立て作業の上に少しずつ描画を重ねていくことで、とても繊細なグラデーションを表現することができます。そのように大きく異なる印象を与える両者の作品ですが、黒の表現に着目することでそれぞれの魅力を感じることができます。

※メゾチントとは……イタリア語で「中間調子」を意味する銅版画技法のひとつ。刃物等を用いて銅板の全面を毛羽立たせ、それを削ったり均したりして明暗を表現します。

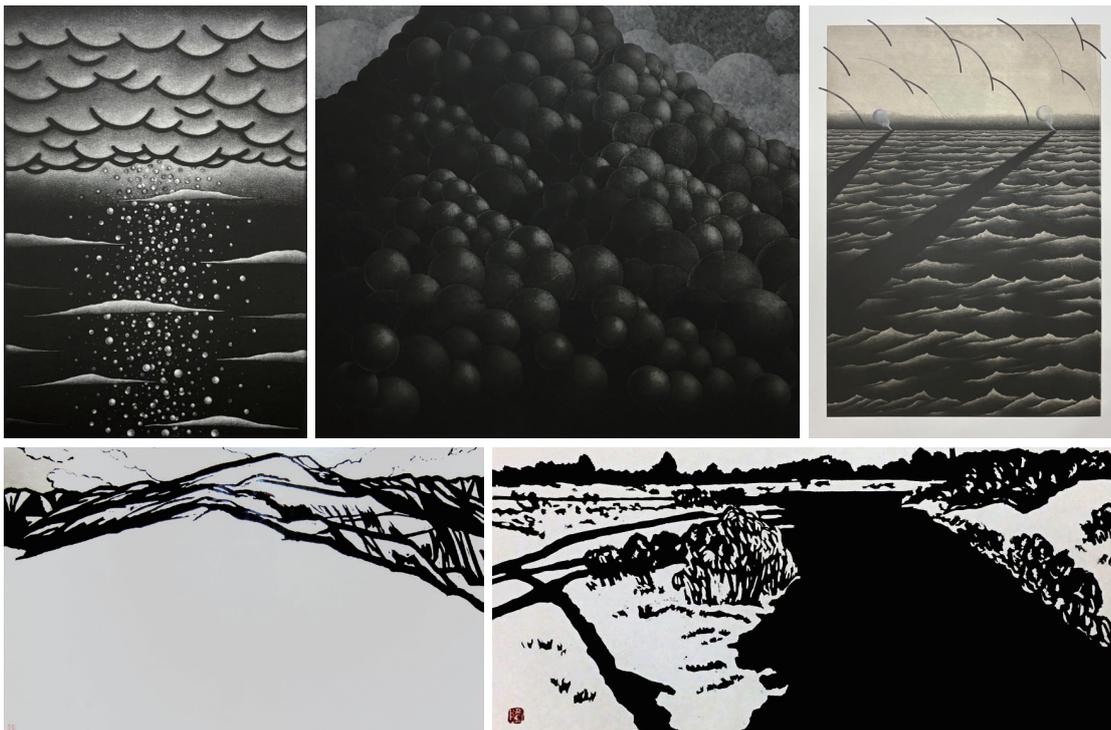
#### 2) 郷土作家に新たな光を当てる

菊地隆知は、半身不随や心筋梗塞などの困難にさらされながらも、不屈の精神で木版画に人生を注いだ人物です。その前向きで明るい人柄は人々に愛され、今でも多くの市民に親しまれ、尊敬を集める存在として、長井を代表する芸術家の一人に数えられています。この度の若手作家とのコラボレーションを通じて、現代の視点から光を照射し、長井市民の生活に溶け込んでいる菊地作品の新たな魅力を探ります。

#### 3) 自然からインスピレーションを得た制作

菊地は長井の山々や最上川などをモチーフに多くの作品を残しました。大森は具体的な場所は示していませんが、海、山、樹木、風などを起点に作品を構想しています。二人の視点からは、自然がいかにか作家の想像力を掻き立て、創造の源泉となるのかが見えてきます。

### 4. 参考作品



①Birds of feather flock together 2/②Black mountain/③He is walking in the direction of the wind/④長井の山/⑤最上川A



## 4. 関連事業

### 《トークイベント》

- ・タイトル: 版画って面白い! 版表現の魅力と可能性
- ・内容: 本展の意義や版表現の魅力について話します。
- ・日時: 9月16日(月・敬老の日) 14:00~15:30
- ・場所: 文教の杜・小桜館(予約不要)
- ・入場料: 無料
- ・講師: 若月公平(版画家、東北芸術工科大学名誉教授)、大森弘之(版画家、本展出品作家)

講師プロフィール  
若月 公平

1956年埼玉県生まれ。1981年武蔵野美術大学 実技専修科研究課程版画専修修了。2001年東北芸術工科大学版画コース開設に向け教授として着任(2021年退任)。個展、内外コンクール受賞、多数。  
東北芸術工科大学 名誉教授、一般社団法人日本版画協会 理事、版画学会 名誉会員。

### 《ワークショップ》

- ・タイトル: メゾチントやってみよう!
- ・内容: 技法について学習しながら、小さな作品を制作します。
- ・日時: 10月6日(日) 13:00~16:30
- ・場所: 文教の杜・小桜館
- ・定員: 6名(要予約)
- ・参加費: 2,000円(文教の杜友の会の方は1,500円)
- ・講師: 大森弘之(版画家、本展出品作家)
- ・注意事項: インクを使用するので汚れても良い服装でお越しください  
小学校3年生以下のお子様は保護者の方がお付き添いください

## 5. 展覧会概要

タイトル	Monochrome Dialogue 菊地隆知×大森弘之
内容	版画表現の魅力を探る、時代を超えたコラボレーション展覧会
出品者	菊地隆知、大森弘之
期日	2024年9月6日(金) - 10月20日(日)
休館日	月曜日(祝日の場合は翌日)
時間	10時 - 17時(最終入館は16時30分)
場所	文教の杜ながい 旧丸大扇屋内蔵、新蔵等
観覧料	無料

## 6. 展覧会図録

本展覧会の記録冊子を作成します。

B5サイズ/20ページ程度

通常版: 1,000円(税込)

特別版: 2,500円(税込) ※大森氏による小作品付

【事業に関するお問い合わせは下記までお願いします】

(一財)文教の杜ながい 事務局長 後藤拓朗

住所: 〒993-0086 山形県長井市十日町1-11-7

電話: 0238-88-4151 FAX 0238-88-4045

メール: bunkyou@e.jan.ne.jp

ホームページ: <https://www.bunkyounomori.com>